

[年度] 平成 27 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] マナマコの種苗生産技術の開発（磯根漁場の生産力強化技術の開発）

[担当機関名] 水産試験場 増養殖部

[連絡先] 0735-62-0940

[専門分野] 水産

[分類] 普及

### [背景・ねらい]

本県の重要な水産物であるマナマコは、浅場で容易に漁獲できることから、収益性に優れた資源として期待が高まっています。マナマコの資源増大には種苗生産・放流が有効であるが、これまで県内のマナマコ種苗生産技術は確立されていないため、県産マナマコの種苗生産技術および放流技術の確立を目指しました。

### [研究の成果]

1. 種苗生産に用いる親ナマコの体表にはミジンコ類が多数付着しており、採卵時に卵と一緒にミジンコ類が飼育水槽に混入すると、生産した稚ナマコを食害します。そこで、親ナマコ体表から水道水を用いてミジンコ類を除去する簡易な除去方法を開発しました（図 1）。
2. マナマコの浮遊幼生期の飼育条件（水温、塩分など）を解明し、種苗生産技術を確立しました（図 2）。ふ化した幼生を 5 個体/ml 未満の密度となるよう水槽に收容し、止水（2、3 日に 1 回換水、エアレーション有り）・自然水温・自然光の条件下で飼育する方法が最も効率的でした。
3. 着底後の稚ナマコには、ナマコ用の配合飼料を積極的に給餌すれば成長が良いことがわかりました（図 3）。
4. 稚ナマコの放流技術を開発しました。予め、陸上で基質（メッシュパイプにカキ殻を充填したもの）に稚ナマコを收容してから放流することで、散逸を防ぐことができます（図 4）。

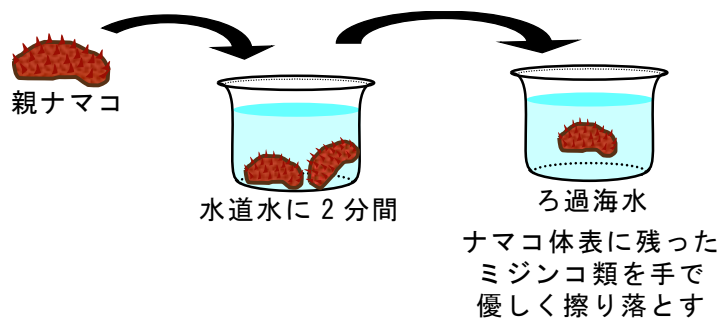


図 1 親ナマコからのミジンコ類の除去方法



図 2 500 L 水槽を用いた浮遊幼生飼育の様子

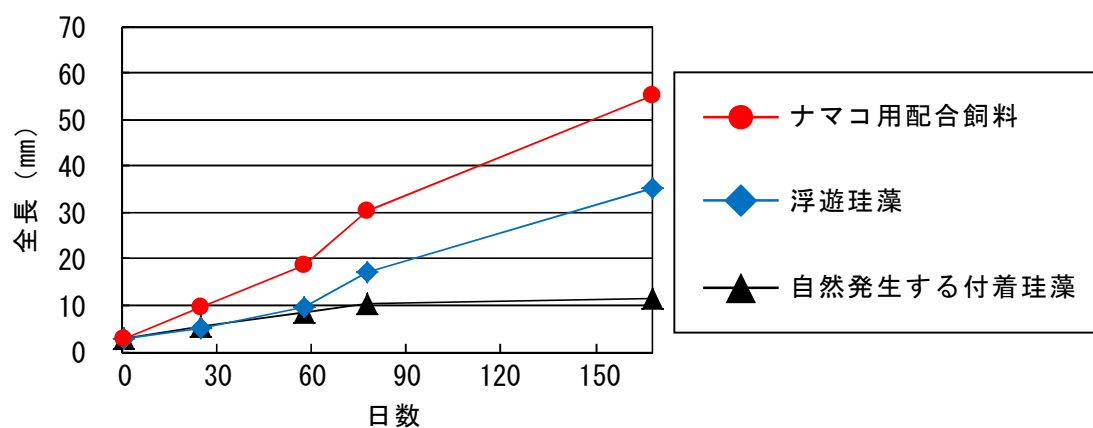


図3 餌料別の稚ナマコの成長

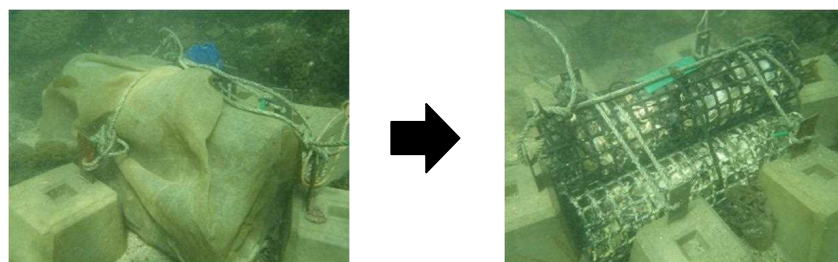


図4 稚ナマコ放流用の基質

(左：袋で包んで沈設する、

右：沈設後、袋を外す)

[成果のポイントと活用]

和歌山県産マナマコの種苗生産・放流技術を開発し、マニュアルを作成しました。この技術には高度な設備やテクニックが不要であり、漁業者自ら取り組むことができます。現場での普及には、マニュアルとともに水産試験場職員が技術指導を行います。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業） 研究期間：平成25～27年度

研究担当者：白石智孝

発表論文等：第37回稚魚研究会 口頭発表

ホームページ掲載の可否：可